

## リタイア期夫婦の共同性とパーソナル・ネットワーク

### —都市度による検討—

関東学院大学  
立山徳子

#### 1 目的

本研究はボット、ウェルマン、野沢の既存研究に続き、夫婦間の共同性と世帯外ネットワークとの関連を明らかにしようするものである。その際、①リタイア期に限定した夫婦を対象とし、②パーソナル・ネットワーク研究において重視される「都市度」の変数投入により、リタイアを経験した夫婦の共同性が世帯外ネットワークとどのような関連を持った構造をもつのか検討を加える。

ここで「都市度」変数に注目する理由としては、都市社会学研究におけるパーソナル・研究の蓄積において、都市度（当該地域の人口規模）の差が人々のもつパーソナル・ネットワークの関係量・空間分布などと深く関連していることが確認されているためである。この点で夫婦間共同性のあり方と関連するとされてきた世帯外ネットワークが都市度という地域性の中でどのような関連を示すのかがもう一つの主眼となる。

#### 2 方法

文部省科学研究費助成（基盤研究C）により、以下の手順で調査票調査を実施した。調査対象地は都市度の差異が得られるように、都心（東京都中野区、墨田区）、郊外（横浜市磯子区、戸塚区）、村落（千葉県大網白里市、勝浦市、鴨川市、館山市）を対象し、それぞれ750組の夫婦を選挙管理人名簿から等間隔抽出した。調査対象者は調査時点で夫がリタイア期年齢に相当する夫婦2250組である。ここから335票（回収率14.9%）の夫婦票の回答を得、これを分析対象とした。

#### 3 結果

分析の結果、以下の知見が得られた。(1)配偶者情緒依存度と夫婦同伴行動尺度の間には正の相関関係がみられ、夫婦共同性の点から夫婦は**融合型夫婦**と**分離型夫婦**に二極化する。一方、(2)夫婦共同性は都市度、属性、階層変数との関連がほとんど認められない。(3)夫と妻のネットワーク関係量については、両者の間に正の相関関係が認められ、**関係量が豊富**な夫婦と**関係量が貧弱**な夫婦の2パターンに**二極分解**する。(4)夫ならびに妻のネットワーク量を従属変数とし、都市度、属性、階層変数、夫婦共同性変数を独立変数とした分散分析・多重分類分析の結果、都市度、属性、階層変数の説明効果は認められるが、夫婦共同性変数の説明効果は認められなかった。

#### 4 結論

以上の分析結果から、リタイア期夫婦は都市度、属性、階層変数の諸変数によって世帯外に保有するネットワーク関係量が規定され、その世帯外ネットワークのあり方が夫婦の共同性、すなわち夫婦の情緒的依存度や同伴行動と関連するものと考えられる。報告では特に都市度によって異なる効果が認められる世帯外ネットワーク量と夫婦共同性との関連について詳細な検討を述べる。